

## 米国 自動車部門の大幅減少が全体を押し下げ(06年7月鉱工業生産)

発表日：06年8月16日(水)

～一方で、ハイテク、航空機が好調持続～

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001 : [sei@dlri.dai-ichi-life.co.jp](mailto:sei@dlri.dai-ichi-life.co.jp))

### 鉱工業生産 (Industrial Production and Capacity Utilization)

	鉱工業生産		製造業 (NAICS)						設備稼働率	生産能力	
	前月比	前年同月比	製造業 (NAICS)	鉱業	公益	ハイテク 関連	除ハイテク 関連	自動車関連	製造業 (NAICS)	生産能力	
05/07	▲0.0	(+3.1)	+0.2	▲1.0	▲0.1	+2.2	+0.1	▲2.0	+80.2	+78.2	+0.1
05/08	+0.3	(+3.1)	+0.4	▲0.6	+0.3	+3.0	+0.2	+3.6	+80.3	+78.4	+0.1
05/09	▲1.3	(+2.0)	▲0.5	▲9.0	▲0.3	+1.6	▲0.5	+2.8	+79.1	+77.8	+0.1
05/10	+1.1	(+2.4)	+1.8	▲1.3	▲2.0	+1.0	+1.9	▲0.0	+79.9	+79.1	+0.1
05/11	+0.9	(+3.2)	+0.8	+4.5	▲1.0	+3.7	+0.4	▲4.6	+80.5	+79.6	+0.1
05/12	+1.0	(+3.5)	+0.4	+2.6	+4.2	+1.6	+0.4	▲1.3	+81.1	+79.7	+0.1
06/01	▲0.1	(+3.2)	+0.9	+2.3	▲10.0	+0.1	+0.9	+2.6	+80.9	+80.2	+0.2
06/02	+0.4	(+3.1)	▲0.2	+0.7	+5.7	+1.2	▲0.3	▲0.9	+81.1	+79.9	+0.2
06/03	+0.5	(+3.7)	+0.4	▲0.1	+1.7	+1.0	+0.3	+1.5	+81.3	+80.0	+0.2
06/04	+0.8	(+4.6)	+0.9	+1.7	▲1.3	+1.7	+0.9	▲0.3	+81.8	+80.6	+0.2
06/05	+0.0	(+4.4)	▲0.1	+0.3	+1.3	+2.2	▲0.4	▲1.3	+81.7	+80.3	+0.2
06/06	+0.8	(+4.4)	+0.8	+1.1	+0.9	+2.0	+0.7	+3.0	+82.3	+80.7	+0.2
06/07	+0.4	(+4.9)	+0.1	+0.8	+2.0	+1.2	+0.1	▲5.4	+82.4	+80.7	+0.2

(出所) FRB

(注) 数字は前月比、但しカッコ内は前年同月比。

### 鉱工業生産は前月比 +0.4%と市場予想を 下回った

06年7月の鉱工業生産は前月比+0.4%と鈍化し、市場予想の同+0.6%を下回った(5月分も同+0.1%から同+0.0%に下方改定)。公益が加速したものの、製造業、鉱業が減速した。もともと、自動車を除く鉱工業生産が前月比+0.8% (前月同+0.7%)と加速しており、世界的に企業部門の活動が活発化しているなかで、生産は広がりを伴って拡大している。加えて、3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率でも+5.8% (前月+6.2%)と高い伸びを維持しており、生産は好調さを維持していると判断される。

製造業は、自動車の減少により前月比+0.1%と減速した。しかし、自動車を除く製造業生産は、同+0.7% (前月+0.6%)と加速している。さらに、3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率でも+4.7% (前月+5.2%)と高い伸びを維持しており、製造業の堅調が持続していると判断される。

稼働率は、生産能力が前月比+0.2%と拡大したものの、生産が同+0.4%となったため82.4%と市場予想を下回った (6月分は82.4%から82.3%に下方改定)。製造業稼働率は80.7%と前月と変わらずとなった。

### 拡大した製造業生産 は19業種中15業種 と前月と変わらず

業種別にみると、鉱業は強い需要によって、前月比+0.8%と高い伸びが持続した。公益は、天然ガスが同+0.6%と鈍化した一方、気温の上昇に伴い電力が同+2.3%と加速したため、全体でも同+2.0%と伸び率が高まった。

製造業は、前月比+0.1%と減速した。しかし、自動車の大幅減少による部分が大きく、拡大した業種数は19業種中15業種と6月と同様に広がりを伴った拡大が続いている。セクター別にみると、自動車関連の生産は、自動車部品が前月比▲1.7%、完成車が同▲9.5%と大幅減少に転じたため、同▲5.4%と2ヵ月ぶりの下落となった。一方、ハイ

テク関連は、半導体が同+1.1%、通信機器が同+1.4%、コンピューターが同+1.2%と減速したことにより同+1.2%（前月同+2.0%）と拡大ペースが鈍化した。もっとも、過去の数字が上方改定されたこともあり、基調を示す3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率では+24.2%（前月同+21.8%）とさらに加速するなど好調が持続している。

加えて、航空機部門の生産は前月比+1.6%、前年同月比+14.6%と好調に推移している。受注残の大きさから当面この部門の生産は、好調を維持するとみられ生産全体を下支えしよう。

### 生産は06年7～9月期以降緩やかなペースで減速する公算

四半期でみると、7月の鉱工業生産は4～6月期対比+1.0%と4～6月期の前期比+1.5%から減速している。製造業生産も4～6月期対比+0.6%と4～6月期の前期比+1.3%から減速している。

生産に影響を与える需要動向の年内の見通しは、個人消費が雇用・所得の増加が続くなか、住宅部門からの資金調達の拡大ペース鈍化やガソリン価格の上昇等により前期比年率+3%の安定的な拡大ペースになると見込まれる。一方、住宅投資は金利上昇の影響で減少が続き、家計部門の緩やかな拡大が予想される。

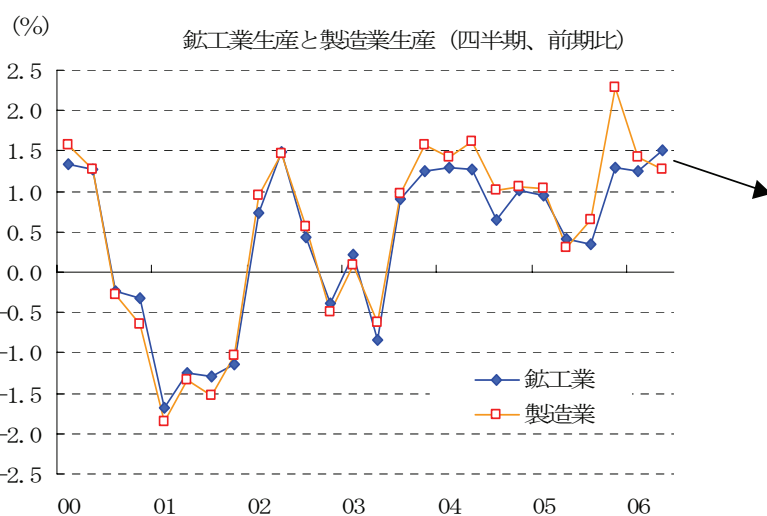
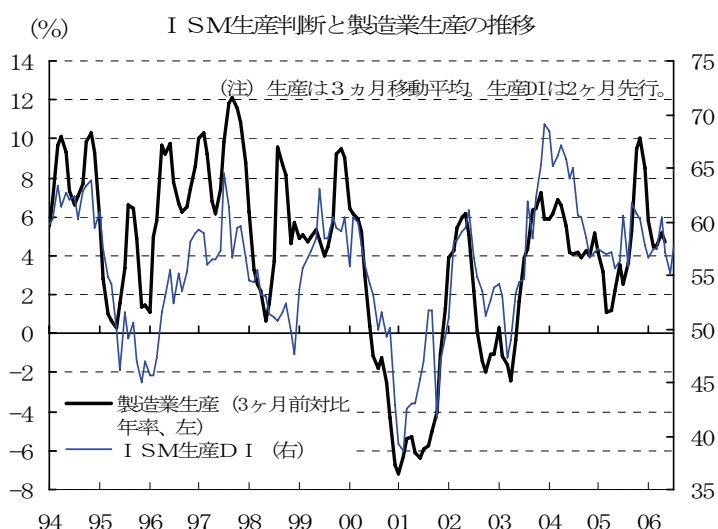
一方、企業部門では①コスト削減圧力の強まりによる効率化投資需要の高まり、②稼働率の上昇、③オフィスビル空室率の低下、④コンピューターの更新投資等によって投資需要が強く、設備投資は年後半堅調さを維持するとみられる。

輸出は、海外の景気拡大、ドル安効果によって堅調さを維持すると見込まれる。このような需要のもと、4～6月期に増加した自動車在庫の減少が予想されることから、7～9月期に在庫の拡大ペースが鈍化すると見込まれる。

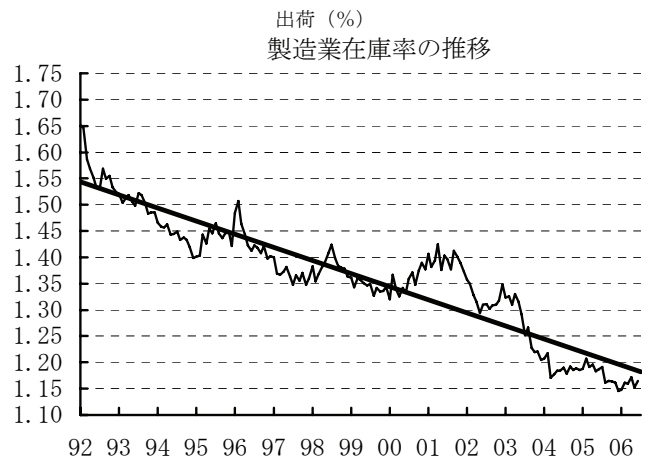
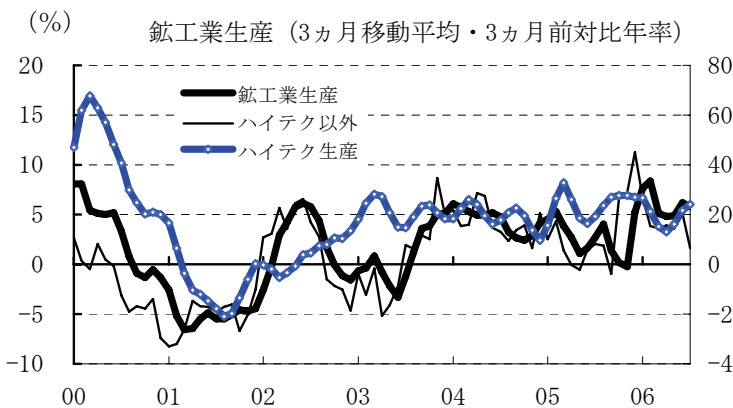
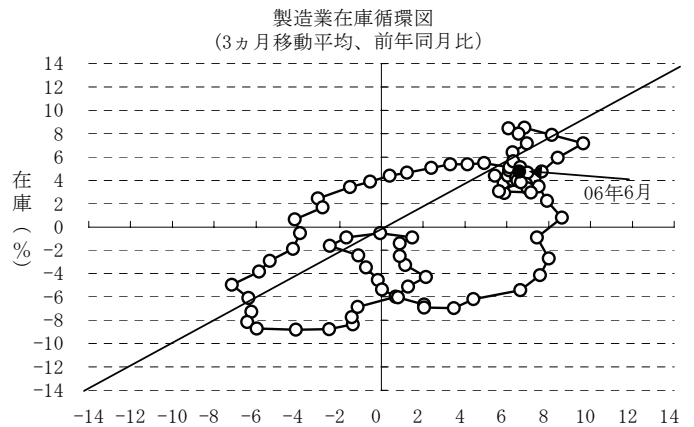
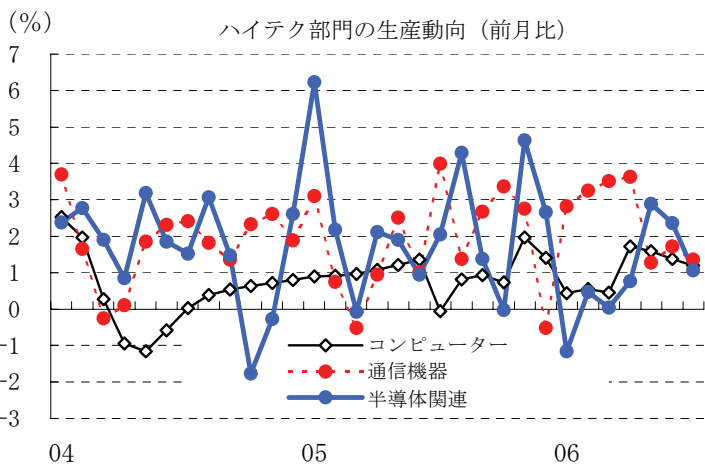
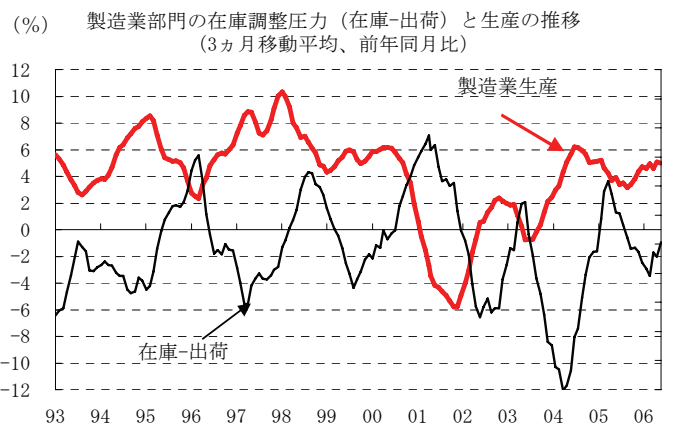
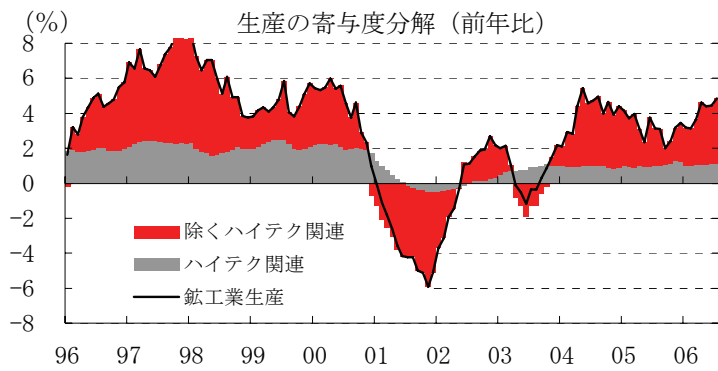
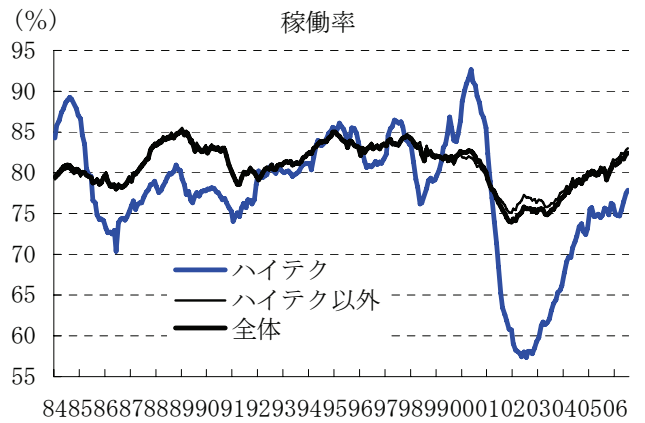
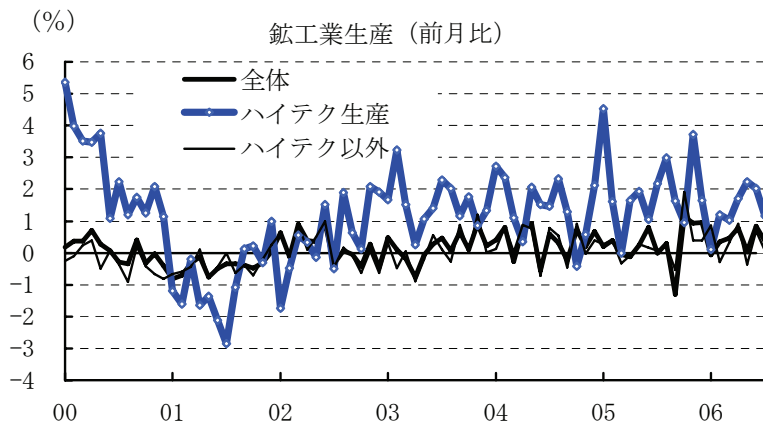
以上のような需要の動向を勘案すると、生産の拡大ペースは緩やかに減速する公算が大きい（下記右側のグラフ）。

### 製造業生産は前年比では9月頃にピークをつける可能性

製造業部門の在庫調整圧力（3ヵ月移動平均・前年同月比の在庫から出荷の伸び率を引いたもの）をみると、3月に▲4.2%とボトムをつけマイナス幅を縮小している（P3右側の上から2番目のグラフ）。このピーク、ボトムは、製造業生産（3ヵ月移動平均・前年同月比）のボトム、ピークに1～6ヵ月先行することから、製造業生産は遅くとも9月には前年比でピークアウトするとみられる。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任を負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。